

WHEN WE TALK ABOUT,
WHAT WE THINK ABOUT INTIMACY.



親密さについて私たちが語る時に、
私たちが思うこと。

hive

No. 9

～すばこ
YA通信～

2025. 1 発行

WHEN WE TALK ABOUT, 親密さについて私たちが語る時に、
WHAT WE THINK ABOUT INTIMACY. 私たちが思うこと。

レイモンド・カーヴァーの短編よりテーマを引用しました。この短編内で、ある人物が「僕らはみんな愛の初心者みたいに見える」といいます。「愛」について語りあっている4人はそれぞれ愛の経験とよべるものをもっています。それでも初心者みたいなことしかいえない。あまりにも近く、それこそ抱えこむように「愛」をみつめ、考えていることは、ことばにしてみるとどうもしっくりこない。ではかえてみましょう。「愛」というつよいことばを「親密さ」ということばにおきかえてみます。今回紹介するのは全て「親密さ」に関係する本たちです。そして、これは実験です。愛に対して距離をもちつつ、人間関係の距離感もふまえて、本を読み、もういちど、今度はふかんできに「親密さ」について考えてみることをためてみましょう。

A NEW BOOK



マンガでわかる！
プレコンセプションケア
佐藤雄一/監
主婦の友社/編
ainousoko/マンガ
495シ

杉森くんを
殺すには
長谷川まりる 著
913/ハ
くもん出版

私は杉森くんを殺すことに決めた。でもその前に、後悔のないようにやり残したことをやる、そして杉森くんを殺さなきゃならない理由をまとめておく、この2つに取り掛かることにした。まずは漫画を買おう、それから遊園地に行ってジェットコースターに乗ろう。

主人公のヒロは 杉森君を殺す準備を始めてからいろいろな人と出会います。まわりの人と繋がってゆくなかで、彼女の心は少しずつ変化してゆきます。杉森くんを殺さなきゃならない本当の理由を見つけた時、それでも自分の人生を生きると決めた彼女が出した結論は……。消えない悲しみとどう向き合ってゆくのか、悲しみと共に一歩を踏み出す物語。



スペシャル
Qトなぼくら

913キ

如月かずさ 著
講談社

っかけで久瀬が男子として可愛いものを楽しんでいることを知る。久瀬との出会いに加え落ちていた指輪に見惚れていることに気づき、本当は宮地も可愛いものが好きなことを思い出す。二人で一緒にメイクをして古着屋を巡っていくうちに、宮地は久瀬に恋愛感情を抱いていく。その一方で久瀬は自分の性がわからないでいた…。中学生の日常を描きつつ、LGBTQについてわかりやすく書かれている。性別を気にせず、ただ好きだという気持ちを表現する勇気をくれる。

塾の帰り道、宮地は駅のホームから外を眺めると、同級生の久瀬が桜色のカーディガンに着替えて公共トイレから出てくるところを目撃した。見かけたことを本人に知られて、それがき



友だち関係で
悩んだときに
役立つ本を
紹介します。

360力

河出書房新社 編

書き言葉が生業の作家や翻訳家・学者や、話し言葉を中心につかうアナウンサー、インタビュアーなど19名の書き手がそれぞれ人間関係について書いています。10代の自分をおもいだす文章だったり、10代のだれかに語りかける文章だったり、自分の分野から人間関係へとからめる書き方をしている人もいます。しかし、この書き手たちには共通点があります。それはつねに「関係」について意識していることです。「関係」は「構造」とも読みかえてもいいかもしれませんが。書き手は文章の構造から試行錯誤して書いています。それはなぜか。構造は何かひとつの要素で決まらないからです。文章だったらことばひとつで伝えたいことが決まるわけではありません。読者につたえるためにことばとことばの関係を考えているのです。つまりこの本は内容だけではなく、書き方からも関係について考えなおすことにつかえます。「友だち」ということばをつけられた関係性について考えることのおもしろさが紹介されているのです。

友だち関係で
悩んだときに
役立つ本を
紹介します。



河出書房新社

INFORMATION

連作短編アニメーション

秒速5センチメートル

a chain of short stories about their distance

秒速5センチメートル

新海誠 著 汐文社 913シ



秒速5センチメートル

新海誠

監督・脚本：新海誠
製作：2007年

明里は同じ中学への進路も決まっていたが、明里は父の転勤により小学校卒業と同時に東京から栃木へ引越してしまった。二人はその後疎遠になってしまったが、文通を重ねるうち中学1年の冬に貴樹が明里の最寄り駅まで会いに行くと伝える。しかし放課後から乗った電車は進むほど大雪により遅延していくことに…。1作目で小学生だった貴樹と明里は2作目では高校生に、3作目では社会人へと成長しながら、感情の変化を追っていく。

あらすじ

3部構成になっており、作品ごとに主人公遠野貴樹が成長していく物語。お互い好意を持っていた遠野貴樹と篠原

みどころ 貴樹が1人駅のホームで電車を待つ場面など複数人が話すことが少なく、作品全体を通して人物より情景描写や音にこだわった映画。作品の最後には山崎まさよしの主題歌が人物たちの心情とリンクしている。

みどころ

映画を完成させた後監督自ら小説にしており、どちらか1つでも十分楽しめるが映像と文章で補完し合っている。映画では小中学生時代が目立つが、小説では高校・大学時代の貴樹とその周囲を細かく書いている。

開館時間 月曜～土曜/午前9時～午後8時

日曜・祝日/午前9時～午後5時

休館日 毎月の第1・3木曜日 年末年始(12/31～1/4)

杉並区立成田図書館(杉並区成田東3-28-5)

電話 03-3317-0341